

## VI 平成29年度事業評価

COC統括機構は、茨城大学COC事業に関する事業目的の達成及び改善に資するため、進捗状況を評価することとしている。平成29年度の事業評価については以下のとおりである。

### 【審議経過】

- ①平成30年3月19日 COC統括委員会（第2回）  
自己評価書を了承
- ②平成30年3月29日 COC外部評価委員会（第2回）  
外部評価結果を確定
- ③平成30年3月29日 COC外部評価委員会・COC統括委員会 合同会議（第2回）  
外部評価結果を評価原案として承認
- ④平成30年4月13日 経営協議会 付議 評価結果確定

### 1 外部評価にあたっての基本的考え方

平成29年度茨城大学COC事業について、評価基準を当初事業計画に対する達成度に置き、以下の4段階にて評価を行った。

	S	A	B	C
評 価	当初計画を上回って実施された。	当初計画どおりに実施された。	当初計画をやや下回った。	当初計画を大幅に下回った。



右から鈴木委員長、加藤木委員、  
玄蕃委員、横田委員



機構長からの謝辞



合同会議

平成29年度 茨城大学COC事業  
評価結果

COC外部評価委員会

評 価	地域課題等の共有	S ・ A ・ B ・ C
	教 育	S ・ A ・ B ・ C
	研 究	S ・ A ・ B ・ C
	社 会 貢 献	S ・ A ・ B ・ C
	総 合	S ・ A ・ B ・ C

【講 評】

COC事業の四年目に入り、COCプラス事業協力校との連携を含め学内一体的な推進体制が整い、事業の定着と深化が窺われる。シンポジウムやFD・SD等を通し、地域課題・ニーズの掘起こし、事業への反映が引続き積極的に行われた。教育事業では地域志向教育プログラムの拡充、「茨城学」は必修科目化とともにCOCプラス事業のもとでの学内外への広がり内容充実が図られた。前年度開講の「5学部混合地域PBL」は全学部拡大、学生の受講意欲と地域への関心も大きく高まった。学部横断的な取組みや学生の地域貢献活動・情報発信の一層の活発化につながり、地域の人材育成取組みは着実にステップアップが図られている。

以上から、「教育」については評価「S」、事業全体としては計画通りに進捗したと認められ、総合およびその他項目とも評価「A」とする。

【提 言】

- ・地域の社会環境・経済環境の変化が激しい中、地域の課題やニーズをあらゆる機会を利用し継続的に把握に努める必要がある。円卓会議、パートナー企業への企業訪問、交流会等、継続して積極的に実施いただきたい。
- ・研究資金やプロジェクト資金、さらに学生の起業資金の調達ではクラウドファンディングの利用も検討いただきたい。
- ・リカレント教育への関心の高まりの中、ライブラリーカフェは地域の学びの場として貴重であり期待を集めている。引続き開講数を維持し、特に企業人、市民向けへの情報発信を強化していただきたい。
- ・30年度はCOC事業の最終年度であり、総仕上げとしての事業の更なる充実に加え、期間終了後に事業成果が社会実装へとしっかり繋がるよう、担当部門への円滑な引き継ぎに努められたい。
- ・そして、31年度以降も地域の未来づくりに参画できる人材の育成を目指していただきたい。

## 平成29年度 茨城大学 COC 外部評価委員会委員名簿

平成 29 年 9 月 1 日

	職名	氏名	所属	任期	備考
1	委員長	鈴木 祥 順	(一財) 常陽地域研究センター 理事長	H29. 9. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
2	委員	阿 部 勇 司	茨城県 企画部企画課長	H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
3	委員	加藤木 克 也	(株) 三友製作所 代表取締役	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
4	委員	玄 蕃 由美子	(株) 日刊工業新聞社 業務局次長兼業務部長 兼新製品情報部長	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
5	委員	横 田 修 一	(有) 横田農場 代表取締役	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号